

勝林寺寺報



聞法は重ねてこそ

親鸞聖人のご法話に「往生を不定におぼめさん人は、まずわが身の往生をおぼしめして、お念佛さふるうべし」(御消息集)という言葉があります。日頃仏法に縁をもすんで聴聞しながらも、いまひとつ、その意趣が味わいとれない、信心がひらけてこない人は、何よりも、まず日々に仏壇を大切にし、お念佛を申しつつ生きよ、という教えです。先達が教えて下さるお念佛の道だから、この道にまちがいないと心にきめて、ひとえに、お念佛を申すひぐらしをしていくと、だんだんと仮のお慈悲が身にしみてきて、やがてまことの信心、めざめの世界に転入させていただけることになるのです。

近代の真宗僧侶で、深い信心に生きられた近角常観(ちかずみじょうかん)先生は、いつも母上から贈られてきた手織りの織物の話をされたり手織りの木綿の白衣が届きました。先生はそれを見て、いまではもつと上等なものが、かんたんに求められるのに、手作りなんて無駄なことをしたもんだ、と思われました。しかし、そののち、何度も洗濯しているうちに、市販の白衣はすぐに傷んでしまうのに、この手織りの白衣は、洗えば洗うほど白くなつて、いつまでも丈夫がありました。そこで先生は、母は無駄なことをしたと思ったけれども、いまにして、この汗かけで乱暴ものの私のために、わざわざ手織りの布地をつくって届けてくださったと気づいて、その白衣をいとおしがられたといいます。

この時に、はじめて母上の心が先生に届いたわけです。

近角先生は、いつもこの話をされながら、仏のお慈悲とお念佛の心も、これと同じことである、とおおせになつたといいます。

オウム真理教に思う(一九九五年)

大きな問題になつてゐるオウム真理教は、自称して仏教といいますが、それはまったく仏教とは違います。

仏教とは、基本的には、人間が仏になること、すなわちありのままなる現実の人間があるべき理想の人間をめざして成つてゆくことを教え

るもので、それは新たなる人格成長、人間成熟をとげてゆく教えであります。今日では一般には、人間とはサルが進化して、人間になつたといいますが、とすれば、その人間とは、さらに何に向かつて成るべきか。それについては、現代の人々はまったく考えません。また今日の学

校教育でも教えません。人間を好みの方向にとらえて、もとは動物だと考えるのみで、それを高みの方向にとらえる発想はもちません。現代の学校教育における大きな問題点であります。

それに対して仏教では、人間は等しく教えを学び、それを鏡として、つねに自分の心の姿を問いかけて、自分中心の我執の殻を脱皮して、新しいまことの自分自身に向かつて成長してゆくことをめざすものであります。そして仏教では、そういう脱皮を解脱といい、そういう成長を成仏というわけであります。

オウム真理教の麻原教祖は、自分はすでに解脱を得、成仏したというそですが、あの東京や松本のサリン事件などを指示したことが事実だとすれば、それは仏教ではありません。私たちは、正しい仏教を学ばねばなりません。

(信楽峻磨遺稿法語集より引用)

お知らせ

勝林寺法輪会の研修会をかねて降誕会(親鸞聖人の誕生をお祝する会)をお勧めいたします。会員の方はぜひお参りください。なお、終了後は、ささやかな祝賀会を予定しています。

一日(日)	谷垣 栄宅	一周忌・一三回忌
四日(水)	藤山和子宅	一三回忌・二三回忌
五日(木)	出石但東仏教会	花まつり 準備会
六日(金)	田中和子宅 還仏式	「花まつり」

納骨研修旅行のご案内

期日 六月一八〇一九日

各戸に配布していただきました案内を熟読の上、ぜひご参加ください。申込みのとりまとめは、仏婦評議員さんにお願いしています。

さる四月九日に行われた観桜会第一部 グランドゴルフ大会の結果をお知らせします。当日は、老若男女総勢三十七名が参加し、ホールインワンが

九つも出るなど、大変高レベルの戦いが繰り広げられました。

ご報告

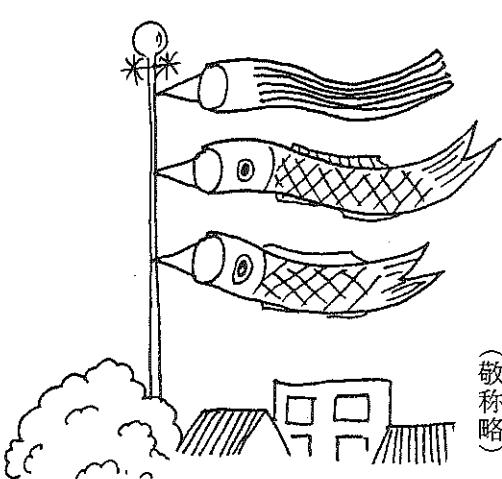
三〇日(月) 念仏奉仕団
三一日(火) 念仏奉仕団
高福寺 永代経

優勝 田村ゆきゑさん(上小田)
準優勝 田中純子さん(上小田)
第三位 永井正人さん(矢根)

(敬称略)

五月 勝林寺 予定

一日(日)	谷垣 栄宅	一周忌・一三回忌
出石但東仏教会 役員会		



わたしのほとけられ

私は、生まれてから九十を超えた今までずっと眼病にとりつかれ悩まされてきた。母は、赤ん坊の私をおんぶして浅間峠を超え、八鹿の眼科まで行つたと聞いたが、これは多分作り話だと思う。昔の浅間峠は、女が、しかも子供をおんぶして超えられるようななまやさしい峠ではなかつた。それほど親子は苦労したというのだらうと思う。たとえ遠方の病院にかかるたどしても、その治療法は、どこも同じで単純素朴なものだつた。ホウ酸水で目を洗う、ガラス棒の先に軟膏を付けて塗りこむ。どこへいってもそれくらいであった。

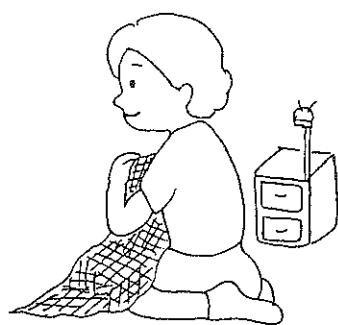
二年生はなくたどき 指住から 黒板がみえ
づらいようだ、休学しても早く眼科にかかる
ように」と言られた。そこで、母の里、夜久野
の専福寺の叔父叔母のもとから、都合よく開業
した新進氣鋭の眼科博士の武内先生の病院に通
つた。折を見計らつて、手術をしてもらえるこ
とに至った。母は、そこには、勝林寺を一人
で背負いとても忙しかつたが、週に一度は必ず
見舞いに来てくれた。手術を受ける前の日、眼
科からの帰り道、母が「ほんや、今日はお母ち
やんがおんぶしてあげよう」という。せつかくく
だからおんぶしてもらひうと、しばらくして母が
歌いだした。母は子守唄など歌つたことがない
のにその日は歌いだした。それは「和讃」「弥陀
成仏」のこの方は、今に十劫をへたまえり……
わたしを十劫の昔から（おまえの親
はわたし）と呼びかけてくださるその声が「南
無阿弥陀仏」わたしのほとけさま。私は、その
呼び声を唱えて、聞いて、わたしのいのちのも
つたいなさにめざめさせていただく、ただそれ
だけ。それだけだけど大きい白い道。わたしけ
ども、母と一緒にその呼び声に呼ばれて呼んで

法語カレンダー五月（H.P.より一部抜粋）

弥陀の言ひに帰しめれば

不退のくらゝい自然なり

五月。木々が枝を伸ばし、地面からは花が顔をするぞかせていきます。それはまた、雑草が活動する季節であります。みなさんは雑草に、どのようなイメージをお持ちでしょう。実は海外と日本とでは、雑草に対する感情が大きく異なるようなのです。日本では、必ずしも一〇〇%悪者扱いはされません。厄介ではあるけれども、強い生命力は一目置かれる存在とされてきました。雑草のカタバミなどは、家が代々絶えずに繁栄するようにという意味で、家のシンボルの家紋にさえ採用されています。また、大リーグで活躍する上原浩治投手が信条としているのは「雑草魂」。日本では「不屈、ねばり強い、注目されない」ところでも地道に努力する」などの肯定的な意味で使われますね。一方海外では、雑草はイコール邪魔者。駆逐の対象でしかありません。昆虫におけるゴキブリのよくな存在だそうです。海外で褒めことばのつもりで「あなたは雑草のよう」と表現すると、相手には「ゴキブリのよう」と言われたように受け取られかねないので、「注意ください。さて、踏まれても踏まれても立ち上がる、というのが雑草のイメージ」としてあります。さて、踏まれても立ち上がりたいのです。ハコベやオオバコは種がゼリー状になつています。踏まることにより、動物たちの足に種を付着させることで、自らの遺伝子を広く拡散させているのです。立ち上がるような無駄なことにエネルギーを使うよりも、踏まれながらどうやって成功しようかという戦略



※参考『弱者の戦略』稻垣栄洋（新潮選書）

松本智量(まつもと ちりょう)

寺族どん門徒の方々とは、たいてい寺かご自宅でお会いするのが常ですが、ときにそこを離れてお付き合いさせていただきました。お付き合いです。そんな機会が、春から続きました。まずは、退任された仏婦役員さんたちとのランチ会。四十代から八十年代のちよつと年季の入った女子会です（笑）地元の珍しい食材を使つたお店の料理に舌鼓を打ちながらの三時間。大笑い小笑いをはさんで、ときにはうなづきときにのけぞり、おしゃべりは尽きることなく続ります。もつとも盛り上がつたのが、洗濯へのこだわりの数々・・十人十色とはよく言つたもので、一人一人様々なこだわりがあり「えーっ！」「なんでー？」女子会ならではの話題です。次に、いきいきドームでのグランドゴルフ大会。たくさんの参加者で、終始、あちこちから元気な歓声が上がつていきました。寺からも住職、坊守に加えて若院も参加したので、今年こそ「私がほしいもの」というコンセプトで選んだ三位までの豪華（？）賞品が手に入るかと大いに期待したのですが、まさかの惨敗（涙）。若院の十六位が最高で、坊守二十五位、住職に至つては三十一位という散々な結果でした。参加者の皆さんの技術の高さには、脱帽です。（最高齢で参加してくださった齋藤保さんは我々のずっと上をいく十三位でした！）次からは、歳の若い者にはハンデをいただきたいくらいです。そして、これから先、六月に行われる納骨研修旅行。大谷本廟に納骨させていただいた後は、一泊二日の気楽な旅。皆さんと寝食を共にして、親交を深めます。衣を身に着けると隠れてしまう、だらしないところもいいかげんなところもあるがままに受け入れていただき、ともに心から旅を楽しませてもらいます。まだ参加されたことのない方もぜひ今年は行きましょう。（文責 坊守）